

## 〔野菜〕

### 1. 果菜類

#### 1) イチゴ

品種動向: 促成栽培では、福岡は「あまおう」、佐賀・大分・宮崎・鹿児島は「さがほのか」、長崎は「さちのか」、「ゆめのか」、熊本は「さがほのか」、「紅ほっぺ」および「ひのしずく」が主要品種。長崎で「ゆめのか」の作付けが増加。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）:[平成 26 年定植]8 月は曇雨天が続き、気温も低く推移し、頂果房の分化が平年より早かった。その後の果房も連続する傾向となった。12~1 月の気温が平年より低温傾向であったが、年内および 1 月までの収量は平年並みからやや多。2 月以降は低温と日照不足で出荷が伸び悩み、4 月も曇雨天で出荷が落ち込み、最終的な収量は平年より少なく、前年比 90% 程度となった。うどんこ病、炭疽病、ハダニの発生がやや多かった。長崎では灰色かび病が収穫期に多発した。佐賀では CO<sub>2</sub> 発生装置の導入や不耕起栽培の普及が進み、長崎、熊本、大分、宮崎では天敵導入が進んだ。

夏秋どり栽培(宮崎): 品種は「みやざきなつはるか」。標高 600m 以上の高冷地で 6 月中旬収穫開始。7~8 月の盛夏期は小玉傾向となった。秋季は好天に恵まれ、9 月下旬から出荷量が伸び、収穫終了は 11 月中旬となった。

#### 2) トマト

品種動向: 品種に大きな動きは見られないものの、福岡では黄化葉巻病抵抗性品種の導入の動きがある。「麗容」、「CF 桃太郎はるか」、「感激 73」、「りんか 409」等が促成および抑制栽培用の主要品種。夏秋栽培用としては「りんか 409」、「みそら 64」。

促成栽培（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄）:[26 年定植]定植時期からの好天により生育は順調で、年内出荷量は前年を上回った。1~2 月も低温の日はあったが天候に恵まれ出荷量はやや多かったが、4 月の天候不順と 5 月の高温により果実は小玉傾向となり、出荷量は前年より少なかった。全体としては、疫病や灰色かび病、黄化葉巻病の発生が前年よりやや多く、佐賀では青枯病、熊本では褐色根腐病、大分ではコナジラミ、宮崎では葉かび病、コナジラミ類、鹿児島では青枯れ病や根腐病の発生がやや多かった。

普通栽培(熊本、大分、宮崎): 定植後の冷え込みで初期生育は遅れ、その後天候に恵まれ生育は回復したが、出荷量は前年よりやや少なかった。熊本では 8 月の台風の影響で軟化玉や成り疲れが見られた。宮崎では TSWV が一部発生したほか、7 月の天候不順と 8 月の台風で葉かび病、灰色かび病、ヨトウムシ類やコナジラミ類の発生が多かった。

抑制栽培(熊本): 9 月からの冷涼により低段果房の着果は順調で、年内出荷量は前年より多かったが、1 月以降は低温寡日照や成り疲れにより出荷量はやや少なかった。

#### 3) ナス

品種動向: 促成栽培用の主要品種は「筑陽」。単為結果性品種「省太」が福岡、「あのみり」が鹿児島で導入されている。早熟・普通栽培用としては、熊本で「筑陽」、「ヒゴムラサキ」、「黒紫大長」等。

促成栽培(福岡、佐賀、熊本、鹿児島、沖縄): [26 年定植]福岡では 11 月までは天候に恵まれ、出荷量は前年並みであったが、1~6 月に天候不順が続き、出荷量は前年より少なかった。佐賀、熊本も出荷量は前年より少なかった。鹿児島、沖縄では前年並みの収量。福岡に続き、佐賀でも CO<sub>2</sub> 施用が試みられている。アザミウマ類の発生が目立ち、特に沖縄では防除が難しくなっており、福岡、佐賀、熊本ではタバコカスミカメムシ等の天敵導入の取り組みが進められている。病害ではすすかび病、うどんこ病、灰色かび病等の発生が見られた。

早熟・普通栽培(熊本): 定植時後の冷え込みで初期生育がやや遅れたが、その後天候に恵まれ、生育は順調であった。6 月梅雨入り直後から降雨が多かったが、8 月中旬以降は比較的低温で推移し、出荷は順調であった。8 月下旬の台風の影響で出荷量は前年よりやや少なかった。青枯病、すすかび病およびアザミウマ類が発生した。

#### 4)ピーマン

品種動向:促成栽培の主要品種は、宮崎では「京鈴」、「みやざきグリーン」、鹿児島では「TM 鈴波」、「京鈴」、沖縄では「ちぐさ」。早熟・普通作型では、熊本は「京まつり」、「さらら」、「京ひかり」、大分は「さらら」、宮崎は「京まつり」が栽培される。

促成栽培(宮崎、鹿児島、沖縄):[26年定植]宮崎では定植後の曇雨天により軟弱徒長、草勢低下が見られ、1月は生育が回復したが、2月は低温で草勢が低下。3月から気温上昇とともに草勢が回復し収量も増加したが、うどんこ病、青枯れ病の発生が多かった。鹿児島では定植後の台風の影響で年内出荷が遅れ、3~4月は日照時間が少なかったが、収量は前年並みであった。沖縄ではうどんこ病の多発や低温により1~2月の出荷量は落ち込んだが、総出荷量は前年より増加した。宮崎、鹿児島ではアザミウマ対策としてスワルスキーカブリダニやタバコカスミカメが導入されている。

早熟・普通栽培(熊本、大分、宮崎):熊本では定植後の冷え込み、寡日照により前半の出荷量は伸びなかったが、それ以降は天候に恵まれて生育は順調。8月以降は比較的低温と台風の影響で出荷量は前年より少なかった。大分では前年並みの生産量。宮崎では日照不足により収穫が遅れ、梅雨期の長雨、梅雨明け後の高温、8月下旬の天候不順の影響で出荷量は前年より少なかった。アザミウマ類やアブラムシ、うどんこ病や一部圃場では黒枯病や斑点病、青枯病の発生がみられた。

#### 5)キュウリ

品種動向:同じ作型でも、県、さらに産地により多様な品種が栽培される。褐斑病抵抗性品種の導入が進んだ。促成栽培用品種としては「極光607」、「輝世紀」、「千秀2号」等。早熟・普通作型では「ビュースター」、「豊美1号」、「豊美2号」他、抑制作型では「ゆうみ637」、「極光607」、「エクセレント620」、「輝世紀」他が栽培。沖縄では促成から抑制作型まで「輝世紀」および「エクセレント353」が主要品種。

促成・半促成栽培(福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄):[26年定植]定植後からの曇雨天により生育は軟弱徒長気味であった。全般に1~2月は天候が不安定・低温で推移したため、収量は少なかった。3月以降は天候に恵まれ、生育は回復し、収量も増加したが、総収量は前年を下回った。佐賀ではCO<sub>2</sub>施用やIPMの導入が進められている。キュウリ黄化えそ病、べと病、褐斑病、アザミウマ類、コナジラミ類の発生が見られた。

早熟・普通栽培(熊本、宮崎、沖縄):全般に梅雨期の長雨で出荷量は少なく推移し、8月は比較的低温で出荷は良好であったが、8月下旬の台風の影響で収量は減少傾向となり、出荷量は前年並みであった。宮崎では長雨の影響で曲がり果等の奇形果の発生が多く、沖縄ではキュウリ黄化えそ病の発生が多かった。

抑制作栽培(佐賀、宮崎、沖縄):天候に恵まれ、定植後の生育は順調。10月からやや高温で徒長気味の生育であったが、佐賀では前年を上回る収量であった。キュウリ黄化えそ病、アザミウマ類やコナジラミ類の発生が見られた。

キュウリ退緑黄化病や黄化えそ病の対策として、天敵スワルスキーカブリダニの導入、0.4mm目合いの防虫ネット展張、紫外線カットフィルムの展張等が全地域、全作型で定着してきた。

#### 6)スイカ

品種動向:促成・半促成および抑制作型用の大玉主要品種は、「祭りばやし777」、「春のだんらん」、小玉は「ひとりじめ7」、「マダーボール」。早熟・普通作型用の品種は、鹿児島では「夏太鼓」、沖縄では「朝ひかりSR」、「富士光TR」。長崎では黒小玉スイカ「ひとりじめbonbon」が栽培される。

促成・半促成栽培(熊本、鹿児島、沖縄):[26年定植]熊本では12月の冷え込みにより定植後の初期生育はやや遅れたが、1月以降は天候に恵まれ生育は順調。2月下旬からの低温、寡日照により4月の出荷は小玉傾向となったが、5月は天候に恵まれ果実肥大は回復した。出荷量は前年より少なかった。沖縄では冬季曇天であったが果実肥大は良かった。熊本ではうどんこ病、ハダニ、コナジラミ、沖縄ではミナミキイロアザミウマが発生した。

早熟・普通栽培(長崎、鹿児島・沖縄):長崎、鹿児島では交配期の日照不足により着果不良が見られ、出荷量は平年より少なかった。沖縄(北部)ではミナミキイロアザミウマの発生が見られたが、平年並みの収量。

抑制栽培(熊本、沖縄):熊本では台風の影響で定植が遅れたが、その後天候に恵まれ生育は順調であった。11月から高温傾向で着果、果実肥大は回復したが、前年より年内出荷量は2割程度少なかった。

#### 7)メロン

品種動向:「アンデス」、「クインシー」、「肥後グリーン」、「アールス雅」系、「アールスセイヌ」系、「アールスベネチア」系の多様な品種が、産地・作型毎に栽培される。品種の変動はほとんどない。

促成・半促成栽培(熊本、鹿児島):[26年定植]熊本では1月の冷え込みにより、初期生育がやや遅れ、交配期の2月後半の天候不順により小玉の割合が多くなり、6月に入って果実肥大は回復したが、前年より出荷量は少なかった。

抑制栽培(熊本):台風の影響で定植が遅れたが、その後天候に恵まれ生育は順調であった。11月から高温傾向となり、着果、果実肥大は回復したが、前年より年内出荷量は2割程度少なかった。

いずれの作型でも、退緑黄化病、つる割病、うどんこ病の発生がみられた。

#### 8)カボチャ

品種動向:「えびす」、「くりゆたか」の他、「くりほまれ」、「栗将軍」。

促成・半促成栽培(鹿児島、沖縄):[26年定植]鹿児島では生育は順調で、単収も平年を上回った。沖縄(南部)では12月下旬~1月上旬の低温により着果不良が目立ち、平年より水入りカボチャがやや多かったが、病害虫の発生が少なく天候にも恵まれ、生産は良好であった。宮古では直播栽培が行われ、9月下旬~10月上旬播種は天候に恵まれ順調に生育したが、10月中旬~11月播種は多雨と強風により病害が多発し、小玉・未熟果が目立った。

早熟栽培(長崎、鹿児島):長崎では定植後の霜害による植え替えや低温による生育遅れ、降雨による定植遅れが見られ、6月中旬を中心に出荷。鹿児島では3月下旬~4月上旬の日照不足と低温により、1番花の着果不良や生育遅れが見られ、果実は小玉傾向となった。6月に入ると長雨により疫病が多発し腐敗果が発生。2番果の着果数は少なく、収量も低下した。

抑制栽培(長崎、鹿児島):長崎では降雨による播種遅れや強風による株の傷み等が見られた。一方、鹿児島では8月下旬の台風で一部被害を受けたが、その後の生育は順調で、着果から肥大期は好天に恵まれ、収量、品質とも平年を上回った。

疫病、うどんこ病、ハモグリバエによる被害が見られた。鹿児島では天敵温存と防風対策としてソルゴーの栽植を推進している。

#### 9)ニガウリ

品種動向:「えらぶ」(長崎、宮崎、鹿児島)の他、宮崎では「佐土原3号」、「ゴーヤ節成」、「パワフルレイシ」、「宮崎つやみどり」、鹿児島では「か交5号」、「チャンピオン」が栽培される。沖縄では「汐風」(抑制、促成、半促成)、「群星」、「夏盛」(早熟・普通:施設)、「島風」(早熟・露地:露地)。品種の変動は小さい。

促成・半促成栽培(宮崎、鹿児島、沖縄):[26年定植]宮崎では促成は2月に着果数が増加し草勢が低下したが、その後回復した。半促成は4月からの天候不順により徒長気味の生育となり、果実肥大も悪かった。鹿児島では日照不足と長雨により出荷量が大幅に減少した。沖縄では10月の台風襲来による定植遅れや冬期の低温により作柄が安定しなかった。

早熟・普通栽培(長崎、宮崎、鹿児島、沖縄):長崎では日照不足により初期生育が遅れたが、5月上旬からの出荷となった。宮崎・鹿児島では6月の日照不足、長雨、梅雨明け後の高温、8月の台風被害により草勢低下、着果数の減少、果実肥大の遅れがみられ、出荷量が大幅に減少した。露地作型は台風襲来により茎葉に大きな被害を受けた。沖縄(北部)では収量は平年並み。インゲン、キュウリ、キク等の後作として作付けを推進している。

抑制栽培(鹿児島、沖縄):鹿児島では10月以降好天に恵まれ、生育は良好であった。沖縄(北部)では夏期に定植して年末まで収穫する短期栽培が行われているが、台風リスクが高く積極的に推進していない。

うどんこ病、アザミウマ、アブラムシ、センチュウ被害が見られた。長崎ではつる割病が発生しており、新土佐台木を導入。

#### 10)サヤインゲン

品種動向:「ベストクroppキセラ」、「ビックリジャンボ」、「サーベル」等。沖縄では半つる性「ケンタッキーブルー」を中心に栽培。わい性インゲン(サーベル)の長期収穫に取り組む農家が増えている。

促成・半促成栽培(鹿児島、沖縄):[26年播種]鹿児島では1月までは収量も安定していたが、2~4月は天候不順による落花の発生等で減収。沖縄では播種期の台風被害により出荷量は前年より減少した。

早熟・普通栽培(長崎、鹿児島、沖縄):長崎では生育は良好。鹿児島では低温、日照不足で初期生育が遅れ、その後も曇雨天が多く、出荷量は少なかった。沖縄(南部)では9~10月播種は台風被害がなく出荷は順調であったが、11~12月は高温により葉焼け、白鞘、奇形果が多発し、品質は低下した。

抑制栽培(長崎、鹿児島、沖縄):長崎では長雨、台風襲来による播種の遅れや播き直し等で、生育は不揃いとなり、出荷は9月末から始まり、10月下旬がピークとなった。鹿児島では生育、出荷量とも平年並み。沖縄(南部)では12~1月播種は寒波の影響で生育が遅れ、収量も少なかった。

アザミウマ、マメハモグリバエの発生が多いほか、菌核病(沖縄)、チャノホコリダニ等の発生が見られた。

#### 11)ソラマメ(鹿児島)

品種動向:主要品種は「陵西一寸」、「さくら一寸」、「ハウス陵西」、「唐比の春」。品種は替わらず。

秋まき栽培:[26年播種]初期生育は順調。4月以降の高温により枯れ上がりが早く、収量は平年の9割程度と少なかった。

夏まき栽培:9~10月の低温と11月以降の高温により下節位の着莢・肥大が良好で、年内収量は平年の2倍以上となった。収穫初期にしみ症が多発した。着莢負担による草勢低下、1月下旬の甚大な寒害で、収量は平年の3割程度と極めて少なかった。アザミウマ類に対して、IPM防除技術を確立。

#### 12)エンドウ(鹿児島)

品種動向:「ニムラサラダスナップ」が主要品種。他に「スーパーグリーン」、「あくねグリーン」、「南海緑」、「まめこぞう」が増加。

秋まき栽培:[26年播種]生育は順調。気象災害や病害虫の発生が少なく、収量は前年より1割程度多かった。

夏まき栽培:スナップエンドウは、9~10月の低温と11月以降の高温により下節位の着莢・肥大が良好で、年内収量は平年の2倍以上。着莢負担による草勢の低下、収穫後期には心止まりする株が多く、収量は平年の8割程度であった。

アザミウマ類、褐紋病、褐斑病が発生した。アザミウマ類に対して、IPM防除技術を確立。

#### 13)オクラ

品種動向:主要品種は「ピークファイブ」、「ブルースカイ」、「ニュースカイ」他。

促成・半促成栽培(鹿児島):[26年播種]5~7月に曇雨天が多く、着莢不良と病害(灰色かび病等)発生により収量は平年の8割程度であった。

早熟・普通栽培(熊本、宮崎、鹿児島、沖縄):熊本では早い作型で播種、定植時期の冷え込みにより初期生育は遅れたが、出荷は順調であった。8月下旬の台風の影響で出荷は減少し、9月に入り回復したが、出荷量は前年並みであった。宮崎では天候不順や病害虫(立枯病、アブラムシ、ヨトウムシなど)の発生、8月の台風の影響により出荷量は減少した。6月以降、天候不順で曲がり果やイボ果、流れ果が発生した。鹿児島では5~7月に曇雨天が多く、また相次ぐ台風の襲来により、収量は平年の6割程度であった。苗立枯病、灰色かび病の発生が多かった。沖縄(中部)では苗立枯病の発生が多く、播き直しや補植が行われ、また台風被害も見られたが、産地全体の生産量は前年よりやや多かった。

## 2. 葉根菜類

### 1)アスパラガス

品種動向:「ウエルカム」。品種の動きはほとんどない。

半促成栽培(福岡、佐賀、長崎、熊本、宮崎):北部九州各県ともに、前年秋の天候良好で、春芽の収量は前年より多かった。立茎時の天候不順、梅雨明け後の高温、8月の台風による親茎の被害や斑点性病害の発生で、夏芽の収量は前年よりやや少なかった。全期間の収量は平年並みもしくは平年をやや上回った。

熊本、宮崎では生育は順調であったが、熊本では台風の影響、宮崎では入梅後の病害発生により、収量は平年より少なかった。

茎枯病の他、斑点性病害(斑点病・褐斑病)、アザミウマ、ダニの発生がみられた。夏季の高温対策として、寒冷紗被覆が推進されている。

## 2)ネギ

### (1) コネギ

品種動向:産地、季節に応じて使い分けて周年栽培。福岡の周年栽培では「FDH」と「冬彦」が2大品種、佐賀では「鴨頭」、「冬彦」。大分では「若殿」が主で、「冬彦」、「ストレート」など耐倒伏性品種を導入。

周年栽培(福岡、佐賀):福岡では4~6月どりは出荷量は平年より少なかったが、品質は安定していた。7~8月どりは平年より出荷量は増加、10~11月どりは減少、12~1月どりは増加、2月以降は減少した。佐賀では4月は曇雨天、6~7月は長梅雨のため、日照不足による軟弱徒長で収穫物の品質低下が見られた。梅雨明け後は、急激な気温上昇による葉先枯れや萎れ、アザミウマによる品質低下が見られたが、出荷量は前年並みであった。大分では順調な生育であったが、8月に台風の影響で一部倒伏し、収量・品質の低下が見られ、また播種時期が一部遅延した。

ネギハモグリバエ、アザミウマ、また根腐萎凋病およびボトリチス菌による葉先枯れの発生が見られた。虫害抑制のため、UVカットフィルムの導入が拡大している。

### (2) ネギ

品種動向:主要品種は「春扇」、「羽緑一本太」、「龍まさり」、「羽一本太」、「夏扇4号」、「龍翔」等で、作型・産地(標高)に応じて使い分け。

夏まき栽培(大分、鹿児島):[26年播種]大分では3月末にべと病が多発し、収量品質ともに平年を下回った。鹿児島では定植直後に台風による折損被害や生存株数の減少が見られたが、その後の生育は順調であった。

秋まき栽培(大分、鹿児島):[26年播種]大分では春のべと病多発により生育遅延が見られ、梅雨期の長雨と日照不足により収量は平年をやや下回った。鹿児島では中ネギの面積が拡大傾向。

冬まき栽培(大分、鹿児島):[26年播種]大分では夏期低温で生育は順調であったが、一部産地では8月下旬の台風の影響で倒伏により収量・品質が大きく低下した。鹿児島では10~11月どり作型が普及しつつあるが、8月下旬の台風の影響で薩摩半島を中心に折損等の被害が多発し、収穫期が1か月程度遅れた。

春まき栽培(大分、鹿児島):大分では8月下旬の台風による倒伏と生育遅延が見られたが、夏期低温で生育は順調に推移。収穫時期の12月にべと病が多発し、一時的に品質が低下した。鹿児島では8月下旬の台風襲来により大きな減収となった圃場も見られた。

軟腐病、萎凋病、白絹病の発生が見られた。

### 3)タマネギ

品種動向:早出し用として「貴錦」、「レクスター1号」、「スパート」、普通用として「ターザン」、「七宝早生7号」、「もみじ3号」他が、作型に合わせて栽培される。沖縄では「F1037」。

秋まき(早出し)栽培(佐賀、長崎、宮崎、鹿児島、沖縄):[26年播種]佐賀では9~11月は平年並みの気象状況で播種・定植は順調に進んだが、1月末からべと病の発生が見られ、3月の低温により球肥大も悪く、収量は平年より少なかった。長崎では定植後の生育は順調であったが、12月以降の降雨や冷え込み等により緩慢な生育となり、やや小玉の生産となった。宮崎では3月初旬から出荷が始まり、下旬からまとまった量が出荷された。鹿児島では10~11月の天候に恵まれ、生育は前進化し、単収は平年よりやや多かった。沖縄(宮古)のセット球栽培では初期生育は順調であったが、12月からの多雨・日照不足により球肥大が悪く、小玉で腐敗球が多かった。

秋まき(普通)栽培(佐賀、長崎、鹿児島):[26年播種]佐賀では発芽良好で苗質は平年並み。12月の天候不順で定植が遅れ、2月末からべと病が発生し、収量は平年より少なかった。長崎では定植期の降雨により定植が遅れ、小玉傾向の生産となった。鹿児島では法人を中心に加工業務用として中早生系品種が増

加している。

べと病、灰色腐敗病の発生が見られた。

#### 4) ニラ(大分)

主要品種は「タフボーイ」、「スーパーグリーンベルト」、「ミラクルグリーンベルト」。

半促成栽培(冬ニラ):比較的低温が低く、生育が遅れ、春先の出荷量が低下した。低温伸長性の高い品種を模索中。白斑葉枯病の発生が見られた。

普通栽培(夏ニラ):比較的低温で経過したため、生育は順調で、出荷量は前年を上回った。葉先枯れ症、アザミウマが発生した。

#### 5) レタス

品種動向:産地、作型に対応し、「ステディー」、「ツララ」、「サウザー」他。佐賀では「サウザー」、「ステディー」が業務用として周年用いられる。沖縄では秋まき用および春まき用に「ラブトル」、冬まき用に「グリーンストーン」が栽培される。

秋まき栽培(佐賀、長崎、宮崎、沖縄):[26年播種]佐賀では生育後半の寒暖の差が激しく、生育がばらついた。長崎では台風接近により定植が遅れたが、10月以降の好天により生育は順調に推移した。宮崎では10~12月上旬は天候も良く、生育は概ね順調であったが、12月中旬以降の低温により生育遅延が目立ち、玉肥大も不良であった。沖縄(南部)では台風の影響で定植が遅れ、前年より収穫開始期がやや遅れたが、全体の生産量は前年並みであった。

冬まき栽培(佐賀、長崎、沖縄):[26年末・27年1月播種]佐賀では寒暖の差が激しく、生育がばらついた。長崎では生育は概ね順調であったが、暖冬の影響で7~10日程度の前倒し出荷となった。沖縄(南部)では12月までは気温が高く、チップバーンが発生し、1月の低温で寒ヤケの被害がみられた。タイワンシロガシラの被害も一部発生した。

春まき栽培(佐賀、沖縄):佐賀では順調な生育で推移。沖縄でも生育は概ね順調であった。

夏まき栽培(佐賀、鹿児島):佐賀では長雨により定植が遅れ、秋口以降は高温で生育が進み、収穫時期が前進した。鹿児島では10~11月の好天により生育が1か月程度前進化。年内の結球はやや緩めであったが、年明け以降は適度な緊度であった。

病虫害被害の発生は少なく、軟腐病が見られた程度。沖縄ではタイワンシロガシラ対策として防鳥ネットを被覆。

#### 6) ホウレンソウ(佐賀、宮崎)

産地、作型によりきわめて多数の品種が栽培される。秋・冬まき用として佐賀では「ハンター」、「トラッド7」、「ソロモン」、宮崎では「クロノス」、「スーパーアリーナ7」、春・夏まき用として「プリウス」、「ニュー進太郎」、「ミラージュ」、「マジエスタ」他。

ホウレンソウは栽培期間が短く、また集約的に栽培されることから、気候の影響を受けにくい。いずれの産地、作型においてもほぼ順調な生育であった。ただし、佐賀の26年末冬まきでは4月中旬までの天候不順、5月上旬後の日照不足により収量が減少した。宮崎の春まきでは雨除け栽培でアザミウマが多発した。天候不順により生育がやや緩慢で、軟弱徒長や葉色の悪い圃場が多かった。一方、秋まきは天候に恵まれ、生育が前進し、出荷量が増加した。

佐賀ではケナガコナダニと萎凋病、宮崎では秋まきで炭疽病が一部発生した。

#### 7) ハクサイ(長崎)

主要品種は「T-503」、「春物語」、「春眉山」。

冬・春まき栽培:[26年末・27年播種]暖冬の影響で1週間程度早い生育状況であった。心腐れ症が一部発生したが、抽台の発生はなかった。

#### 8) キャベツ

品種動向:産地、作型により多様な品種が栽培される。佐賀の秋まきでは「青空」、「おきな」、宮崎の秋まきおよび冬春まきでは「初恋」、「綾里」、「彩里」、鹿児島の秋まきでは「夢ごろも」、「若隅3号」、沖縄の冬春まきでは「はやどり」、「ビューティボール」が栽培される。夏まきでは「いろどり」、「松波」、「冬武者」、「かん

み」、「夢舞台」、「夢ごろも」、「金春」等。

秋まき栽培(佐賀、鹿児島、沖縄):[26年播種]佐賀では生育は順調。宮崎では低温により生育遅延が見られた。鹿児島では3~4月どり作型が普及しつつあるが、根こぶ病が拡大傾向。沖縄では低温・日照不足により生育は不良であった。佐賀では水田裏作作物として推進中であり、有望品種の選定が進められている。

冬・春まき栽培(宮崎、沖縄):[26年末・27年播種]宮崎では断続的な降雨により、定植、収穫作業の遅れが目立った。沖縄では降雨量が少なく、チップバーン等の障害が見られた。

夏まき栽培(佐賀、鹿児島):佐賀では気温が平年より高く推移したため、生育が前進化した。1月末の寒波で記録的な冷え込みとなったが、積雪による大きな障害は発生せず、順調な出荷であった。鹿児島では10~11月の気温が高めに推移し、生育が1か月程度早進化した。肥大は順調であった。連作圃場を中心に菌核病が拡大傾向。

根こぶ病、黒腐病、菌核病、ネギアザミウマが発生し、沖縄ではタイワンシロガラシの被害が見られた。

#### 9)ブロッコリー

品種動向:「ピクセル」が広く利用され、他に「グランドーム」、「サマードーム」、「しき緑96号」、「彩麟」等。福岡では有望品種を試作中、佐賀では有望品種を選定中。

秋まき・冬春まき栽培(福岡、長崎):[26年播種]秋季の降雨により定植が遅れたが、定植後の生育は概ね順調であった。福岡では11月の高温により出荷は前倒しとなり、年内、年明けとも出荷量は前年よりやや多かった。長崎では平年並みの10月からの出荷となった。

冬春まき栽培(福岡・長崎):[26年末・27年播種]福岡では3~4月上旬は気温や日射量の日変化が大きく、日出荷量は安定しなかった。4月下旬以降は高温で推移し、生育は順調であったが、出荷量は前年よりやや少なかった。長崎では作柄は良好で、単収も前年より多かった。

夏まき栽培(福岡、佐賀):福岡では曇天長雨により定植が10日~2週間遅れた。定植遅れに伴う苗の老化、10月上中旬の低温・乾燥により、生育・収穫時期ともにやや遅れた。佐賀では気温が平年より高く推移したため、生育が前進化した。1月末の寒波で記録的な冷え込みとなったが、積雪による障害は発生せず、順調な出荷となった。

いずれの産地、作型でも根こぶ病の発生が問題となっている。

#### 10)ダイコン

品種動向:産地、作型によりきわめて多数の品種が栽培される。品種の動きも速い。冬まき用として「初誉」、「青誉」、「春慶」、「早生ながはる」、「春神楽」、春まき用として「つや風」、「トップランナー」、夏まき用として「夏天下」、「夏の守」、秋まき用として「耐病総太」、「早生ながはる」、「春慶」、「冬侍」他多数。鹿児島の冬・春・夏まきでは内部が白く、総太りの品種が増える傾向。

冬まき栽培(長崎、鹿児島):[26年播種]長崎では生育は順調に進み、作柄は安定した。鹿児島では平年並みの生育。

春まき・夏まき栽培(鹿児島):2月まきの5月どりでは、一品种で抽台の発生が見られた。

秋まき栽培(長崎、宮崎、鹿児島):長崎では暖冬により10日程度生育が前進化し、収穫遅れによる品質低下が見られた。宮崎では9月上旬播種は概ね順調な生育であったが、10月は少雨により生育が遅延。その後の生育は平年に比べて早く、増収であったが、干し加工については乾きが悪く、品質劣化が目立った。鹿児島では10~11月の好天により生育が3週間程度前進化。生育、肥大は良好であった。

鹿児島では鱗翅目類、特に夏まきでキスジノミハムシが、また、横縞症、亀裂褐変症、針状黒変、空洞症等の生理障害が発生した。

#### 11)ニンジン

品種動向:主要品種は「彩誉」、「向陽2号」、その他「愛紅」、「敬紅」、「黒田五寸」、「朱衣」。沖縄の秋まきでは「TE30」が栽培される。

秋まき栽培(沖縄):[26年播種]沖縄(中部)では雨不足により肥大不良等の品質低下が見られた。2月頃から適期を逃した収穫遅れ等が目立ち、出荷量は前年を下回った。

冬まき栽培(長崎、宮崎):[26年末・27年播種]長崎では播種後の生育は順調で、5月まで安定した生産。6月は早い入梅により腐敗果が多発した。宮崎では生育は概ね順調で、品質も良好であった。

夏まき栽培(長崎、宮崎、鹿児島):長崎では台風等の影響で播き直しや発芽不良が散見された。発芽後の生育は好天に恵まれ順調で、11月上旬からの収穫となった。宮崎では播種直後の台風により、表土流亡した圃場が見られた。12月以降収穫が始まったが、肥大は圃場でばらついた。鹿児島では10~11月の好天により生育が2~3週間前進したが、生育、肥大は良好であった。冬季温暖化を利用した4~5月どり低コスト技術が検討されている。

#### 12)ゴボウ

品種は「柳川理想」、「山田早生」他。鹿児島では加工用として「常豊」が普及。

秋まき栽培(福岡、宮崎):[26年播種]福岡では天候不順により9月上中旬播種は遅れ気味となり、生育の遅れや不揃いが散見された。10~11月の天気は良好であったが、12月以降の低温等で生育はさらに遅れた。3~4月の天候は良好で、5月上旬を中心に出荷のピークとなった。宮崎では播種は8月下旬から始まったが、天候不順で圃場準備、作付が遅れた。出荷は11月から始まったが、岐根が多く、収量は平年の8割程度であった。

冬まき栽培(宮崎):[26年末・27年播種]宮崎では冬春期の菌核病と、一部地域ではゾウムシ被害が目立ったが、生育は概ね良好であった。近年抽台が見られるが、今作はほとんど発生しなかった。

春まき栽培(宮崎、鹿児島):宮崎では7月までは生育は順調であったが、一部降雨の影響で岐根が多発した。ゴボウネモグリバエ被害は平年に比べて少なかった。鹿児島では順調な生育であった。サラダ用途に適する若掘りゴボウの栽培が増加し、長ゴボウは減少傾向。

#### 13)バレイショ

品種は、「ニシユタカ」、「メークイン」、「デジマ」、「トヨシロ」他。

秋作抑制・冬作(鹿児島、沖縄):[26年末・27年1月播種]鹿児島(奄美)では1~2月の干ばつにより低収、小玉傾向であった。沖縄(北部)では栽培面積の減少や疫病の発生により生産量が減少した。

春作(長崎、宮崎、鹿児島):長崎では3月以降の天候不順により、やや小玉の生産となった。宮崎では2月上旬の低温により出芽が遅れ、4月の日照不足で生育が遅れた。疫病が1週間早く発生し、収量は平年より1割程度少なかった。鹿児島では天候に恵まれ作柄は良好。

秋作(長崎、沖縄):長崎では定植後の発芽は順調であったが、10月以降の少雨により生育はやや遅れた。沖縄(北部)では気温が高く青枯れ病の発生が見られた。

そうか病、疫病、菌核病、軟腐病が発生。長崎ではそうか病抵抗性品種「さんじゅう丸」の導入を推進している。

#### 14)サツマイモ

品種は、高糖度品種「べにはるか」の他に、「ベニサツマ」、「高系14号」。

早熟・普通栽培(大分、宮崎、鹿児島):[26年定植]大分では7月の日照不足と低温傾向により地上部の生育が遅れ、全体に小いも傾向であった。宮崎では早堀は色・形状は良好であったが、収量は春期の曇雨天の影響で平年より3割程度少なかった。普通栽培でも収量は平年より2割程度少なかった。鹿児島では6月は記録的な多雨で地上部の繁茂量が少なく、低収傾向となった。

#### 15)サトイモ

品種は、「石川早生」、「泉南中野早生」、「大吉」、「大和」、他。

促成・半促成(鹿児島):[26年定植]生育は順調で、平年並み。面積は拡大傾向にあるが、種いも供給量が不足。

早熟・普通栽培(大分、宮崎、鹿児島):[26年定植]大分では7月以降の日照不足により小いもが多かった。宮崎、鹿児島では6月の記録的な多雨で疫病が多発し、大幅な収量減であった。鹿児島でネコブセンチュウ類が新発生。

#### 16)レンコン(佐賀)

品種は「秀麗」、「成蹊」、「金澄8号」、「金澄20号」。台風等による大きな被害はなかったが、8月の日照



不足により収量は平年よりやや減少した。腐敗病、ネモグリセンチュウが発生した。

(九州沖縄農業研究センター 園芸研究領域長 沖村 誠)